

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成21年11月26日(2009.11.26)

【公開番号】特開2008-57095(P2008-57095A)

【公開日】平成20年3月13日(2008.3.13)

【年通号数】公開・登録公報2008-010

【出願番号】特願2006-284734(P2006-284734)

【国際特許分類】

D 0 1 F 6/92 (2006.01)

B 6 0 R 13/02 (2006.01)

A 4 7 G 27/02 (2006.01)

【F I】

D 0 1 F 6/92 3 0 8 A

B 6 0 R 13/02 B

D 0 1 F 6/92 3 0 8 D

D 0 1 F 6/92 3 0 8 C

D 0 1 F 6/92 3 0 8 B

A 4 7 G 27/02 Z

【手続補正書】

【提出日】平成21年10月13日(2009.10.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリマーアロイ構造によりポリ乳酸樹脂を他の熱可塑性樹脂が被覆してなる纖維を含んでなることを特徴とする内装材。

【請求項2】

ポリ乳酸樹脂の他の熱可塑性樹脂が、熱可塑性ポリアミド、ポリアセタール、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリトリメチレンテレフタレート、ポリエチレンテレフタレートのいずれかである、請求項1記載の内装材。

【請求項3】

ポリ乳酸樹脂の他の熱可塑性樹脂が熱可塑性ポリアミド樹脂である、請求項1または2記載の内装材。

【請求項4】

ポリ乳酸樹脂の他の熱可塑性樹脂が融点150～250である、請求項1～3のいずれか記載の内装材。

【請求項5】

ポリ乳酸樹脂と他の熱可塑性樹脂とのブレンド比率が質量比で5/95～55/45である、請求項1～4のいずれか記載の内装材。

【請求項6】

ポリ乳酸樹脂を他の熱可塑性樹脂が被覆してなる纖維が、ドメインサイズの平均値が0.001～2μmである海島構造を有するポリマーアロイ纖維である、請求項1～5のいずれか記載の内装材。

【請求項7】

内装材が自動車用である、請求項1～6のいずれか記載の内装材。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

すなわち本発明は、ポリマー・アロイ構造によりポリ乳酸樹脂を他の熱可塑性樹脂が被覆してなる複合纖維を含んでなることを特徴とする内装材である。